



居住空間デザイン研究室

Living Space Design, Art and Architecture Lab.

郡 裕美

KORI, Yumi / Professor

自然の中の安息所 俗世からはなれて暮らす

Heaven of Nature: Living away from the Ordinary Life

都会の喧騒を背に

ひとときの休息を求めて森の中に足を踏み入れ

移ろいゆく空と時とともに流れる風に身を任せる

幾度と満ちていく月とともに

あなたが「自分」を取り戻す場所

現代の都市での生活は人々の精神を圧迫しており、絶え間なく流れてくる情報にさらされている生活や社会的は知らず知らずのうちに人々の心を蝕んでいる。現代人にとって必要なものはひとときの安らぎを提供できる場所である。

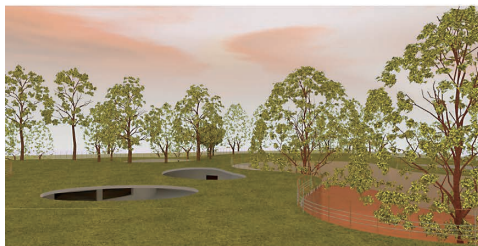
空気は澄み、木々に囲まれたこの場所で、都会とは違う時間の流れを感じながら目的もなく歩き回ることができる。ここでの過ごし方はあなたの思い通りにできる。

あなたの心を養生するために建てられたこの施設であなたは何を見つけることができるのだろうか。



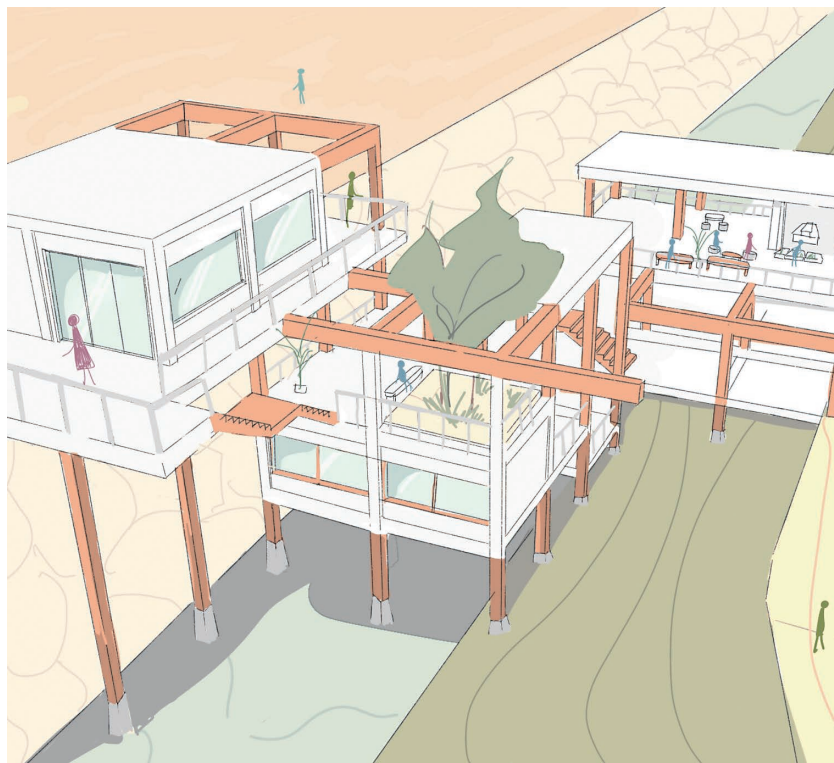
稲塚 優美子

INAZUKA, Yumiko



結ぶ 境界線 水口のまちと城跡

Boundaries Connect: Town of Minakuchi and Castle Ruins



「生まれ育ったまちを盛り上げたい」

「かつてのまちの活気を取り戻したい」

滋賀県南部の甲賀市水口町に位置する水口城跡は水堀で囲まれた城跡であり、かつてのまちの中心であった場所でもある。

しかし、今は見る影もなくひっそりと佇みまちの様子を伺っている。また、まちと城跡は水堀で隔てられており、人々の侵入を拒んでいるようにも見える。

そこで、水堀で囲まれた城跡とまちを繋げかつてまちの中心だった城が再び今のまちの中心になり人々の交流や取りこぼしてきた産業を再び盛んにする拠点となる場を形成する。



大谷 一華

OTANI, Ichika

BOOK TERMINAL 電車を活用した流動性のある図書空間

Book Terminal: Fluid Library Space Utilizing Trains

近年、検索ツールは本からインターネットへと移行し、本に触れる機会が減少している。インターネットでは必要な情報を即座に得られる一方で、求める情報だけが表示され、幅広い知識の獲得が制限されがちだ。しかし、本にはその過程で一連の流れや新たな知見、興味が得られるという独自の魅力がある。

そこで、本に親しむ機会を増やすため、本好きの人々をさらに本へ引き込むとともに、本から遠ざかっていた人々が再び本に触れるような仕掛けを備えた「図書空間+駅前空間」を提案する。

本提案では、全国の鉄道網を活用し、図書電車によって各地の図書館の蔵書をこの図書空間に輸送する。毎日異なる本が並ぶ流動性、全国の蔵書を借りて返せる仕組み、図書電車で本と共に旅する体験を設計し、新たな本との出会いを提供する。

これらの仕掛けにより、図書館や本への関心が高まり、検索ツールとしての本の利用が増加することを期待する。



建築部門賞

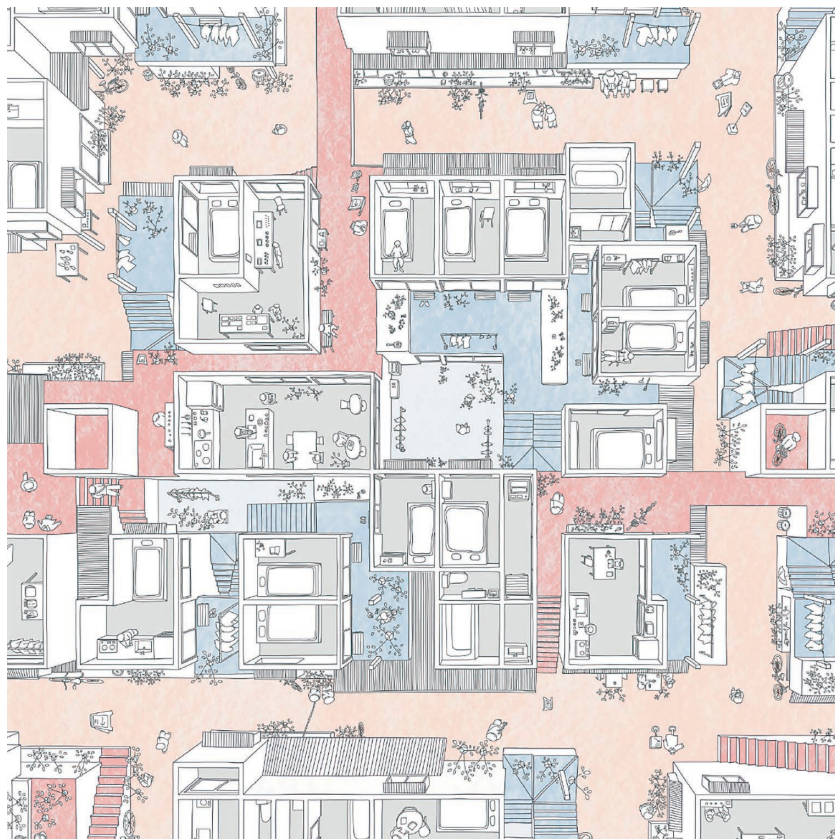
包吉 智温

KANEYOSHI, Tomoharu



テリトルくらし 道空間でつながる中崎継承群

Terriliving: Nakazaki Legacy Cluster United through the Path of Connection



道路を自分の領域と認識し、そこを庭のように私的な目的で利用する行為をテリトルという。中崎町ではテリトルくらしがされることで住民間には相互扶助の関係が築かれ、あふれだす植木鉢などが中崎町らしい町並みを形成している。テリトルくらしは住民と住民、そして住民と来訪者の関係を育む。

中崎町は昭和初期の建物がいまだ残っており、空き家を改修した店舗などが増えたことで住民と店舗が一体となってテリトルくらしをしている。しかし建物の老朽化に伴う建て替えにより高層建築物が多く見られるようになったことで、テリトルくらしが消え去ることが懸念される。

そこでテリトルくらしを継承するための道空間でつながる低層の住宅群を提案する。この住宅群は中崎町らしいくらし、中崎町らしい町並みを継承していく。

審査会賞
(建築部門 第2位)

笹倉 悠斗

SASAKURA, Yuto



3点の隙間が生み出す視線の広がり 劇場と図書館のある区役所

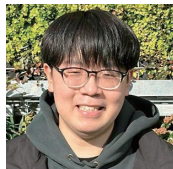
Expansive Line of Sight Created by the Gap between Three Points: Ward Office with Theater and Library

かつては交通の要衝としての利用や都市近郊の農村地帯として賑わい、その後、多様な文化が交わり、豊かな地域文化を育んできた都島区。

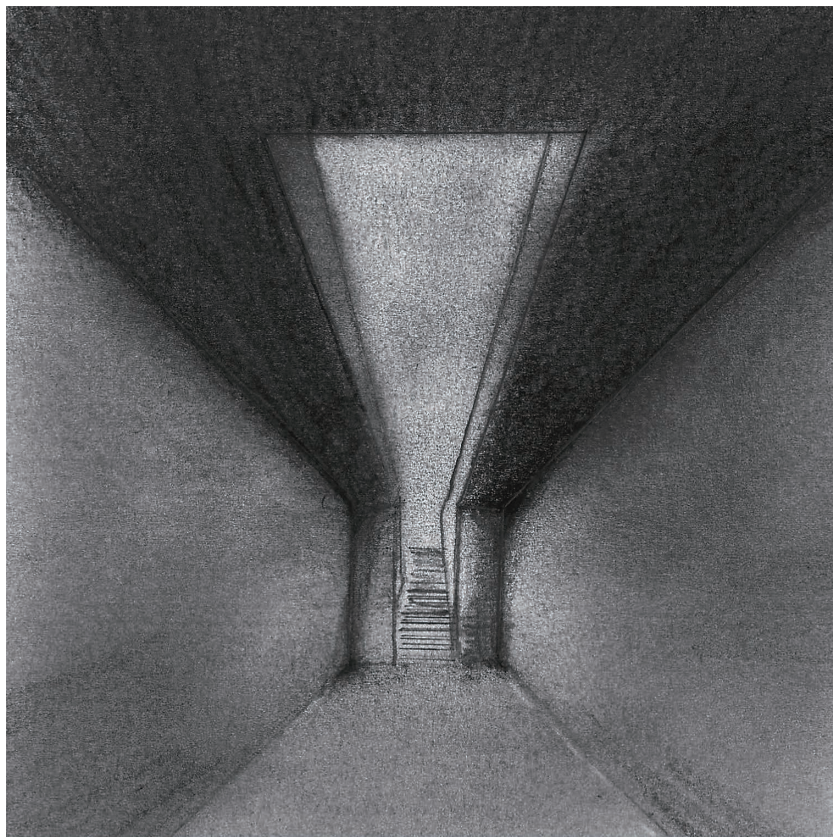
ところが、都島区役所は近年施設の老朽化による利用者の利便性を損なう問題や、特別な用事がない限り、区役所には足を運ばないことで生じる地域住民とのコミュニケーション不足などの課題を抱えています。

そこで、大阪府大阪市都島区にある都島区役所の建て替えを提案します。建て替えにあたっては、人々が気楽に来られるように、区役所だけでなく、図書館と劇場を入れることにしました。空間のつくり方としては、淀川、大川、寝屋川の三方を川に囲まれた都島区の恵まれた自然環境をもとに、流れの隙間に人が、入り込み、地域と繋がりを持たせています。

地域の大切な町の顔に、川を介して地域住民同士の交流が生まれように、隙間を介して、人々の賑わいを呼び戻したいという想いを込めています。



志智 弘大
SHICHI, Kodai



異文化の交流と共生 日本とブラジルの文化が交わる集合住宅

Intercultural Exchange and Coexistence: Housing Complex where Japanese and Brazilian Cultures Intersect



これから外国人の増加が予測され、異文化に対する理解がますます重要になります。私が育った町でも、さまざまな国籍の人々が生活しており、互いに文化や価値観を知るための場が必要だと感じました。しかし、現状では日本人中心のスタイルが多く、異文化を反映した設計が少ないのが現実です。そこで私は、ブラジルと日本の建築文化を融合させた新しい住環境を提案したいと考えました。

私が目指すのは、単なる住まいではなく、地域の人々が集まり、文化に触れ、自然に交流できる場所です。ブラジルと日本の間取りを組み合わせ、住民一人ひとりが心地よく感じられる空間を作り出します。料理や運動などを通じて、異なるバックグラウンドを持つ人々が自然に触れ合える環境を作り出します。

この集合住宅を通じて多くのことを学び、新たな価値観が生まれることで、住民がより豊かな生活を送ることができることを期待しています。

篠原 ジュニオル

SHINOHARA, Junior



住＋商 住宅街／商店街の新たなカタチ

Life and Business: A New Style of Shopping Street / Residential Area

私は下町の商店街で幼少期を過ごした。住居と商いが密接した暮らしは、思い返すと日々が楽しく、コミュニケーションで溢れた日々であった。

それに比べ、今住んでいる住宅街では、コミュニケーションが希薄化され、住宅という建物の中に人々の暮らしが閉じ込められている。

“住＋商”が生む住宅街／商店街の新たなカタチについて考えた。最近ではよく耳にする職住一体建築を解き、様々な空間と混ぜることで、人々が日々を楽しみを感じられる新たなまちを設計した。

設計敷地である神戸市の長田神社駅前商店街は、かつて神戸市の三大神社とも言われていた長田神社の参道に面した商店街であり、私の生まれ育ったまちである。シャッター街化が進むこのまちの活性化についても考えた。



銭谷 海空

ZENITANI, Misora

芽吹く未来

水と緑の街“箕面”の新たな玄関

Breathe New Life into “Minoh City”



水と緑の街、箕面。

大阪府の北部にある自然豊かなあたたかい街だ。

近年箕面市の中部地域では、北大阪急行の延伸があり活性化が進んでいる。その一方で、かつては箕面市の中心地であった西部地域、つまり阪急箕面駅周辺では建物の老朽化や個人商店の閉業が続き賑わいを失い続けていた。駅の目の前には殺風景な空間が広がり“水と緑の街”の玄関口であるとは到底思えない。

どこにいても自然の温もりを感じられるカフェ、地元名産の食材を使う飲食店、街の人々の作品を持ち寄ることができるギャラリー、緑に囲まれた癒しの足湯など——この駅の前に、人々が集い、緑豊かな木々が生い茂り、街を明るくしていくような空間を提案する。

人々の繋がりが、樹木や草花が、街に賑わいが——“芽吹き”、そしてこの街の未来を創造していくだろう。

田中 藍

TANAKA, Ai



1本の線で 古着屋の敷居の高さを解消するために

Diversity: Eliminating the Anxiety of Going into a Second-hand Clothing Store

普段利用する服屋さんは気軽に入れるのに、入ったことのない服屋さんはなぜか躊躇してしまうことはありませんか。

私は服を見るのも着るのも好きですが、初めての空間やそのお店独特の雰囲気によって圧倒され入りづらいと感じることがあります。入りたいのにどうしても諦めてしまうのです。

おそらく「敷居が高い」と感じるからでしょう。見えない壁が私の行動を邪魔しているのです。

古着屋が多く並ぶ中崎町は、私にとって敷居が高く感じる場所の一つです。

挑戦したいという気持ちはあるのですが諦める気持ちだけがそれを上回り、なかなか一歩を踏み出すことができません。

そんな中、ぶらぶら中崎町を歩いていると、ひととき目を引く不思議な建物が。

ようこそ古着屋「P.tan」へ



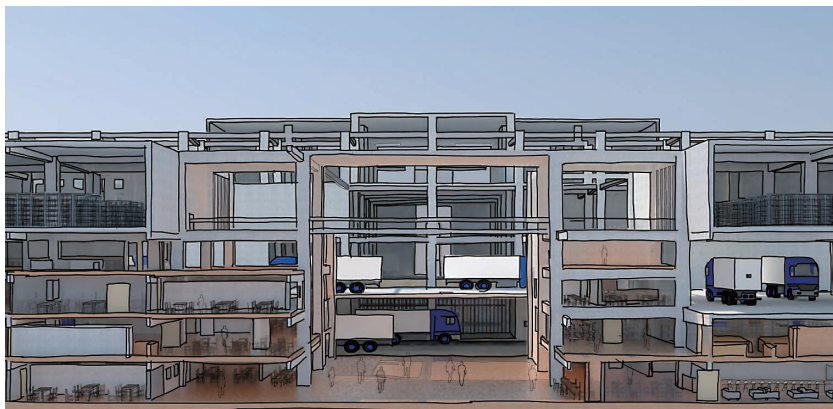
寺前 雨音

TERAMAE, Amane



モノが結ぶ新たなつながり 街と開くこれからの物流施設

New Connections Linked by Objects: Future Logistics Facilities to Open in the City



私たちの生活にとって物流はなくてはならない存在である。だが様々な課題があることを知らない。本提案ではその現状を知り改善しつつ、地域の憩いの場を持つこれからの物流施設を提案する。

今現在の物流施設は物流単機能がほとんどでブラックボックス化している。さらにトラックの受け入れ態勢が整っておらず、路駐が増加し苦情が増えており、かつ物流そのものが軽視されている。

計画敷地である東大阪市本庄では物流施設や町工場が多いうえに地域の憩いの場が無く、賑わいがない。

そこでトラックと地域をつなげる休息空間、物流と地域の憩いの場をつなげる空間を持つ物流施設を設計する。これにより新たなつながりが生み、にぎわう地域交流の場となる。

物流は私たちの生活にとって身近である。そのため搬入から搬出までの流れ、ベルトコンベアによる運搬など物流の日常を可視化することで知るきっかけとなり、地域に開かれたこれからの物流施設となる。

那須 悠希

NASU, Yuki



団地の記憶 団地の空間的特徴を内包した駅前文化施設

Memories of DANCHI: Cultural Center Encompassing DANCHI

幼い頃の自分は、団地のまわりをたくさん走っていた。そこは、一棟、二棟とナンバリングされた直方体の建物が連なり、均一的な空間でたくさんの緑が配置されている。夏は蝉の声が聞こえ、冬になるにつれて銀杏の木が咲き散ってゆく。そして桜が咲き、小学校には進学した子供たちの声が響き渡る。団地と町の間に壁や柵になるものではなく、シームレスに住居と町と学校を移動できる。子供が自由に探索出来る環境は彼らの知的探究心を育ませたように思う。

一方で現代に立てられた集合住宅やマンションは駅前の立地などを目的に金銭的リターンが求められる。そこで住む人々は隣に誰が住んでいるかもわからないぐらいプライベートが守られた生活をしている。私はここで育つ子供が窮屈に感じる。

子供が安全に守られている現在に子供が無邪気に走り回れる場所、町と交流出来る場所を私の団地での記憶から作り出せないかと考えた。



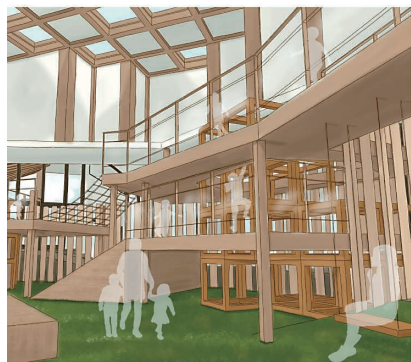
本多 翔希

HONDA, Shoki



波紋を描く 複合福祉施設から広がる多世代のコミュニティ

Draw Ripples: Multi Generational Community Expanding from a Complex Welfare Facility



福祉施設であるデイサービスに入ることには抵抗がある人は多い。そんな抵抗感を減らすためにはどのような空間が必要なのか。

デイサービスを利用する高齢者が施設で過ごしていくうえで必要なのは、“刺激”や“思い出”である。子供たちが遊ぶ姿を見て刺激を受け、子供たちと共に過ごすことで昔の思い出を振り返る。

デイサービスに保育園や学童保育を複合し、地域の人が集まれる場を設ける。保育園児や小学生、そして地域の人たちが集まり、賑わいのある空間を作ることで認知症を防ぐだけでなく、“福祉施設”という堅苦しいイメージを変えていく。

それに加えて、保育園や学童保育にいる子供たちにとって小さいうちから様々な世代の人と関わり、様々な価値観や考え方を持てるような場所にしていく。



山本 陽彩
YAMAMOTO, Hiroyuki